守ろう！　奄美の宝リュウキュウアユ

奄美市立住用小学校

１　はじめに

本校は，奄美大島の中部に位置し，児童数３２名，４学級の小規模校である。校区内には，日本第２の規模を誇るマングローブがあり，また，国の天然記念物のアマミノクロウサギや県鳥であるルリカケスが見られるなど，自然環境に恵まれている。しかし，近年の住環境の変化や河川工事などの影響により，こうした野生生物も保護しなければ，いずれは絶滅の危機に直面する問題が出てきている。特に奄美と沖縄にしか生息しないリュウキュウアユは，生息数が一時期約１５００匹まで減少するという事態まで起きている。

本校では，学校の近くを流れている役勝川に生息している絶滅危惧種のリュウキュウアユについて平成１８年度から約６年間，学校の総合的な学習の時間等で観察や保護活動に取り組んできた。現在も３・４年生を中心に勉強会や観察会に取り組んだり，保護者や地域の方々と一緒にリュウキュウアユの保護活動を行ったりと積極的に活動している。

このように，恵まれた自然環境を活用し本校にしかできない特色ある教育活動を推進することは，子どもたちに郷土に対する愛着をもたせるとともに，ふるさとを誇りに思い，大切にしようとする心情を育てることができる。

２　活動内容

平成１８年度からリュウキュウアユの保護に関する活動を，地域・行政・団体との広いネットワークを生かして取り組んでいる。また，学校の教育課程においては，総合的な学習の時間にその活動を位置付け，各教科と連携を図りながら取り組んでいる。

(1)　リュウキュウアユを知る活動

リュウキュウアユを知る活動は，県の環境技術協会やマングローブパーク等の専門家の協力で年４回実施している。

〈専門家による勉強会〉

ア　リュウキュウアユの生態の学習

リュウキュウアユと日本に住んでいる多くのアユとの違いを，体の大きさやうろこの大きさ，稚魚の住む環境，ひれの形のちがいなど大きく４つに分けて学んだ。

イ　リュウキュウアユの成魚の観察

１０㎝ほどに成長したリュウキュウアユを役勝川上流で観察した。澄み切った水の中にシュノーケルを着け，リュウキュウアユがどんな姿をしているのか，どのようにエサを食べているのか観察をした。「こっちにいた。あっちにもいた。」，「石にあごをこすっているのが見えた。」など子どもたちは歓声を上げ見入っていた。

〈川での観察会〉

ウ　リュウキュウアユの卵の観察

１２月には，学校近くの役勝川で，リュウキュウアユが産卵した卵の観察会を実施した。卵の大きさは１㎜ぐらいであるが，石に付いた卵を見付けるのは難しく見付けられない子どももいた。これもやってみないと分からない貴重な経験である。

〈卵の観察〉

エ　リュウキュウアユの養殖場の見学

１月には，絶滅の危機にあるリュウキュウアユを養殖しているマングローブパークへ見学に行った。１２月に産卵した卵を養殖で増やすことができないか，研究が行われていた。前年は，数万匹生まれて，生き残ったのは500匹ぐらいで，養殖の難しさが分かった。養殖には，お金もかかるということも理解できた。

〈養殖場の見学〉

年４回のリュウキュウアユを知る活動を通して，子どもたちが「リュウキュウアユを守りたい。」「もっとリュウキュウアユのことを知ってもらいたい。」という強い思いをもつようになった。その思いを基にして，守る活動，広げる活動へつなげていくことが大切である。

⑵　リュウキュウアユを守る活動

子どもたちの思いを大切にしながら，これまで学習してきたことを生かして，リュウキュウアユを守るための活動を行っている。子どもたちの意見の交流から，３つの考えが生まれ，取り組むことにした。

ア　河川の清掃

学習のまとめとして，リュウキュウアユが生息している河川の清掃活動を行っている。学校の目の前を流れる役勝川周辺の清掃作業を行うと，台風や豪雨で上流から流木や農業ごみが流されてきており，清掃作業をすることでリュウキュウアユの住みやすい環境作りを行うことができた。

〈河川の清掃作業〉

イ　河川の整地作業

リュウキュウアユの産卵は，ある一定の限られた場所で行われる。そのため，産卵場所が土砂で埋まっていたり，工事中であったりすれば，卵を産むことができない。そこで，毎年１１月に専門家やＰＴＡ，地域の方々と協力して，河川の整地作業を行っている。具体的には，台風や豪雨のため堆積した赤土を鍬やスコップを使って，洗い流す作業を行った。産卵前に行うことで，産卵数を増やすことができ，安定した産卵を促そうと考えた。子どもたちは，「ここに卵を産んでほしい。」という願いをもちながら活動することができた。

〈産卵場所の整地作業〉

ウ　看板作り

リュウキュウアユの保護を啓発するために，看板作りを行った。リュウキュウア

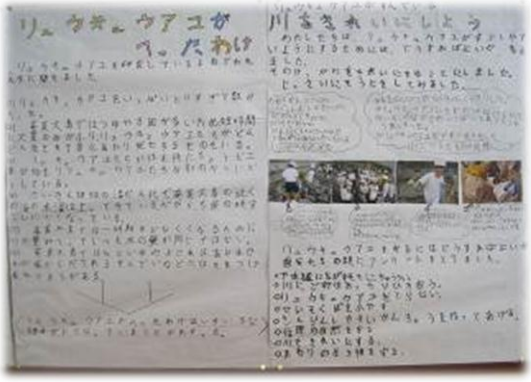
ユを守りたいという思いを形にすることができた。また，できあがった看板は，リュウキュウアユの産卵地の近くに立て，道路を行き交う人たちに見えやすく設置し，啓発を図った。ここでは，看板設置は勝手に設置することはできず，申請書を出して許可が下りてから設置しないといけないという一連の手続きの必要性を学ぶことができた。

〈出来た看板〉

⑶　リュウキュウアユを広める活動

ア　新聞作り

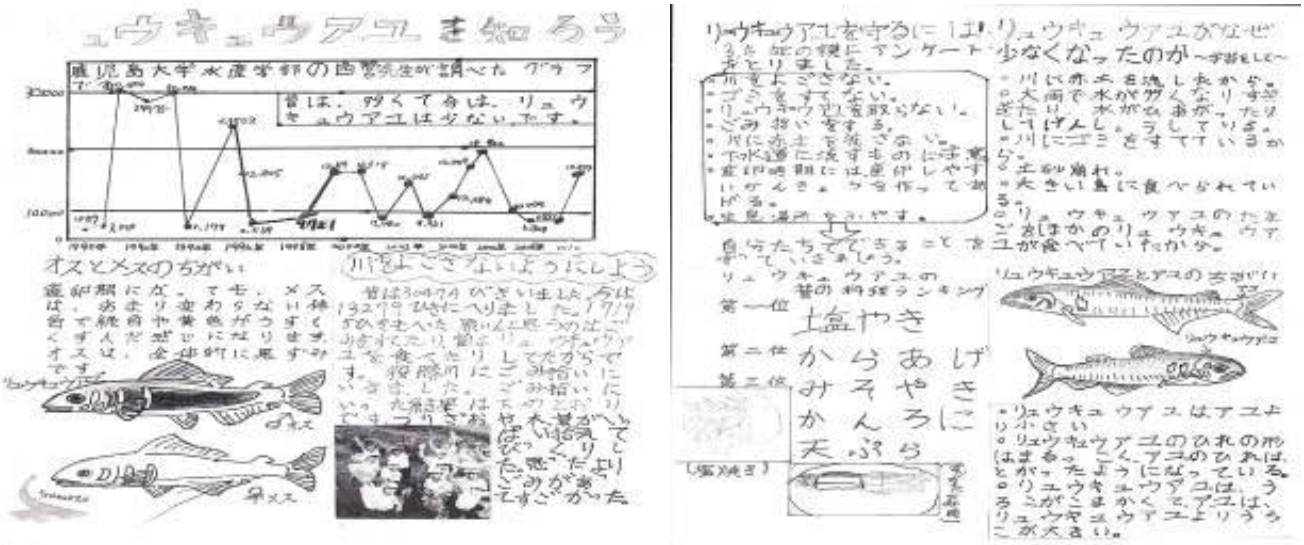
１年間学習してきたことのまとめとして，新聞作りを行った。学校の友達や保護者，地域の方々に分かりやすいように，リュウキュウアユの生息数や生息数が減ってきた原因，自分たちの活動の様子などをまとめ，授業参観やＰＴＡ活動，学習発表会などで，見ていただく機会を作った。すると，身近にいるリュウキュウアユについて，「リュウキュウアユの特徴や貴重さを改めて知った。」，「昔はよく食べていたのに今はできない時代になって残念，早く食べられるくらいの数になってほしい。」などの声を聞いた。保護者や地域の方々の意識が変わり，地域の宝としてのリュウキュウアユの存在を改めて認識することができた。



〈啓発の新聞〉

イ　パンフレット作り

新聞作りと同じく，学習してきたことのまとめとして，パンフレット作りを行った。保護者や友達にアンケートをとったり，専門家に話を聞いたりしながら，今のリュウキュウアユの状況についてまとめた。そして，まとめたものを家族に発信した。「詳しく分かりやすいパンフレットができたね。」，「こんなに勉強をがんばってくれてうれしい。」などの保護者の声も聞かれた。



〈啓発のパンフレット〉

３　成果と課題

⑴　成果

賞状

鹿児島県
奄美市立住用小学校　殿

あなたは環境省・公益財団法人日本鳥類保護連盟主催の第四十七回全国野生生物保護実績発表大会において優秀と認められたのでこれを賞します

平成二十四年十一月二十六日

公益財団法人日本鳥類保護連盟
会長　矢島　稔

○　リュウキュウアユを知る活動を出発点として，子どもたちが主体的にリュウキュウアユを守る活動へつながり，その活動は年を追うごとに充実してきた。

○　活動が次第に地域へと広がりをみせ，地域全体で保護しようとする取組へと変わってきている。

○　保護活動だけでなく，日頃の生活面でも，ごみを少なくすることを意識する家庭が増えたり，進んで毎月行われる各集落の美化活動に参加したりするようになってきた。

○　リュウキュウアユの観察・保護活動が認められ，１１月に環境省で行われた第 47 回全国野生生物保護実績発表大会において，日本鳥類保護連盟会長賞をいただいた。子どもたちにとって自信となり，今後の積極的な活動の励みになるとともに，ふるさとを誇りに思う契機となった。

⑵　課題

○　住用地区内では，保護活動を中心に行っているが，他の地域への啓発活動が行われていない。今後は，もっと他の地域へ情報を発信していき，さらに保護活動・啓発活動を充実させることが必要である。

○　３・４年生の総合的な学習の時間を中心に活動を行っているが，他の学年の関わりもさらにもちながら取り組んでいきたい。

○　他の地域の自然を生かした体験活動とどう関連付け，バランスをとりながら郷土に愛着をもてる活動にしていくかを検討していく必要がある。

４　おわりに

私たちの住む奄美市住用町は，昔からリュウキュウアユの保護活動を奄美市に合併する前から，地域主導で行ってきた。そこに学校が自然保護の取組・啓発を目的として参加してきた。今後も，学校や地域，行政，団体等が協力してリュウキュウアユを守り続けていきたい。そして，いつの日か，昔のようにリュウキュウアユが豊かに泳ぐ川を取り戻せるよう地域発信の核として活動を継続・発展させたい。そうすることにより，子どもたちに郷土に対する愛着や誇りをもたせることになり，将来自分たちの郷土を大切にする立派な大人の育成につながっていくものと確信している。それは，地域の活性化や人口減の歯止めにもなっていくものと思っている。

〈リュウキュウアユ〉